

琉球大学における数理データサイエンス教育に関する基本方針

〔 令和 2年 5月19日 〕
グローバル教育支援機構会議策定

琉球大学は、「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、「普遍的価値を身に付けた 21 世紀型市民として、地域社会及び国際社会の発展に寄与できる人材」の育成を掲げている。琉球大学学位授与の方針では、この人材育成の目的を達成するため、琉大グローバルシティズン・カリキュラム (URGCC) の学習教育目標を定め、各教育課程でこれらを身に付けた者に学位を授与することとしている。7 項目の学習教育目標のうち、情報リテラシーは「幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。」と定義されており、人文・社会・自然・情報系科目を幅広く履修することを通じて達成されることが期待されている。また、問題解決力は「批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。」と定義され、様々な授業において達成されることが期待されている。

一方で、平成 28 年 1 月に閣議決定された第 5 期科学技術基本計画においては、ネットワーク化やサイバー空間利用の飛躍的発展といった潮流を踏まえ、ICT を最大限に生かした新しい価値やサービスが次々と創出され、社会の主体たる人々に豊かさをもたらす「超スマート社会」が未来社会の姿として示されるとともに、こうした社会を世界に先駆けて実現するための取組の強化、人材育成の必要性が示されている。また、平成 28 年 12 月に開催された数理及びデータサイエンス教育の強化に関する懇談会において「大学の数理・データサイエンス教育強化方策について」が示され、データに内在する本質的構造を見極め、数理的思考に基づいて解析・問題解決を行う能力、データサイエンスを活用して新たな価値を生み出し、有用なシステム構築につなげる能力が求められるとし、数理的思考力とデータ分析・活用能力を持つ人材の育成に向けた大学教育システムの構築が必要であるとされている。

そこで、URGCC 学習教育目標を踏まえつつ、数理的思考力とデータ分析・活用能力を持つ人材の育成を推進するため、数理データサイエンス教育に関する基本方針を次のように定める。

1. 琉球大学の全ての学部学生は、「各教育課程の専門性に活かすことを目的に、データを分析し、内在する情報や知識を読み取った上で、論理的思考によって解釈し議論する」内容を有する科目群を履修し、卒業までに数理的思考力とデータ分析・活用能力を身に付けることとする。
2. 各学部は、それぞれの学部の特性を踏まえ、上記内容を提供できるよう教育課程を整備する。なお、共通教育等科目と専門教育科目のいずれの科目で対応するかは問わない。
3. 上記内容に加えて、各学部は必要に応じて発展的内容を提供できるよう努める。
4. 学生が個人所有する情報端末を積極的に活用した授業を推進する。そのために必要な学習環境の整備に努める。